

青木村消防団広報

KODAMA

発行所／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者／林 正男 編集／青木村消防団本部班

No. 21

発行：平成28年2月1日



平成27年度青木村消防団役員



平成二十八年青木村消防出初式 式辞

団長 林 正男

輝かしい平成二十八年の新春を迎え、長い歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、来賓各位のご臨席を賜り、ここに盛大に挙行できます事は、団員と共に喜びとするところでもあります。また、団員各位とご家族の皆様に対しまして、日頃のご活躍とご苦労に深く、感謝申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、当村におきましては火災2件、行方不明者の捜索一件の出勤がありました。幸いにも人的災害はなく、最小限の災害に食い止める事が出来ました。これも川西消防署石井署長を始めとする、職員の皆様のご協力と、日頃からの村民の皆様の防災意識の高さ、ならびに団員諸君の予防広報活動の賜物と感謝いたします。近年では自然災害が大規模化、多様化している中で、県内では、幸いにも大雨による避難勧告や、床下浸水等がなく、穏やかな年でありました。しかし一昨年には、2月の大雪に始まり、南木曾町の土石流災害、御嶽山の噴火、そして県北部で発生した神城断層地震と、自然の脅威を、深く感じた年であり、全国や世界で見ましても爆弾低気圧等による大雨や、各地でマグ

ニチュード7を超える地震が発生しており、自然災害の脅威を再認識するところであります。我々は、自然の脅威を忘れることなく、胸に刻み、防災の意識を常に持ち続けなければならぬと、考えております。当村におきましても、近年台風やゲリラ豪雨等による水害の発生は、年々増加傾向にあり、村民の皆様から我々消防団に寄せられる期待も、より大きいものになっております。また、少子高齢化が進み、全国的にも、当村においても、消防団員が不足している中、機能別消防団員といたつた、村民の皆様と連携を取っていく活動を検討し、実行に移していく場面が増える事と思っております。団員諸君には通常の活動とは違った負担も増える事と思っております。しかし、その活動が10年後の消防団を左右する活動と自負をし、進んで頂きたいと思っております。どんな状況下にあつても我々消防団員は、「自分たちの村は、自分たちで守る」という郷土愛護の精神を忘れてはならないと考えます。どうか団員諸君におかれましては、消防団員としての、重要な使命を再認識されると共に、多様化する災害から地域住民、皆様の安全と繁栄の為に、様々な訓練や活動に励まれる事を、切望するところであります。

さて、本村の機械器具並びに、消防施設につきましては年々更新と整備が着実に進められており、団員の家族に対しては地域消費券の配布、そして可搬ポンプの更新や、今年まで数年の課題であつた活動時の指示伝達を明確にするデジタル消防無線の導入をして頂くなど、格段のご配慮をして頂きました。又昨年十一月十四日に起工しました「ふりさと公園あおき」にはヘリポートや飲料水にも使える防災貯水槽の設置など、団員の士気の高揚と同時に、災害時の活動の一層の効率化が期待されるものであり、村当局の防災と、消防活動に対する深いご理解の賜物と、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次回退団されます、西戸隆司前ラッパ長をはじめとする退団者各位におかれましては、長年に渡り青木村消防団を支えて頂いた事に対し、心より感謝申し上げます。今後、我々消防団員は、今年度より新たな仲間となつた、五名の女性消防団員と共に、女性の視点や温かさを取り入れながら、複雑多様化していく災害に対し、郷土愛護の精神を忘れる事無く、諸先輩の築き上げてこられた伝統ある青木村消防団の業績と、消防精神を継承し規律を重んじ、消防技術の向上を図りながら、一層の努力をする所存であります。

結びに、本日ご臨席を賜りました来賓各位、並びに団員諸君とご家族の益々のご健勝とご多幸を記念申し上げ、式辞と致します。

平成二十七年を 振り返って

副団長 岩下竜太郎



平成二十七年は小規模火災2件と、大きな災害もなく過ごすことが出来ました。村民の皆様は防災意識の賜物と深く感謝いたします。

さて青木村消防団の重大事件としましては、ポンプ車操法への全村からの選手募集が挙げられます。今までは第四分団青木部にその運営管理の全てを委託していたわけですが、全村より選手を募ることに、青木村消防最大戦力がより多くの団員に使用可能となり、村の防災の為、更なる活躍が期待されます。

団員減少に苦しむ昨今であり、創意工夫により力を合わせて村の安心安全を守っていきます。

村民の皆様におかれましては、更なるご理解とご協力をお願いいたします。また、若い力を随時募集中です。是非一緒に村を守りましょう。

一年間の活動を 振り返って

本部長 山田 修

村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年度は四月に野火火災と五月にその他火災と二件ありましたが、他に大きな火災・水害などは無く比較的穏やかな年でした。今後も引き続き安心安全な村作りに努めてまいります。

今年度は新体制発足当初から役割分担の確認を含めた春からの火災想定訓練を実施致しました。又、団運営に関しましては、消防団員の減少に伴う活動の負担を軽減させる為、村と協議を重ねて二つの改革を実行する運びとなりました。一つが森林組合と連携し山林火災の協力活動、もう一つは村内企業にもご協力を頂きますが、平日昼間の団員不足による初期消火活動の補助を目的とした機能別消防団の立ち上げと二つの改革を進めることができました。

今後とも更なる活動に尽力を努めて参りますので、ご理解ご協力をお願い致します。



一年間の活動を 振り返って

水利救護長 片田 勇司



村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し、深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年度は四月に二件火災が発生しましたが、地域の皆様の防災意識の高さにより、被害を最小限に抑えることが出来ました。また、自然災害も少なく、比較的穏やかな年でした。しかし、全国各地では大規模な災害が発生しています。広報活動、訓練等を重ね更なる防災意識の向上に努めていきたいと思っております。

九月には、団長以下十一名で上級救命講習会を受講してきました。大切な命を守る為に、より多くの皆様に受講頂きたいと感じました。

今後とも村の安心安全を守る為に努力してまいります。村民の皆様には入団をお願いすると共に、消防団活動へのご理解ご協力をお願い致します。

一年間の活動を 振り返って

ラッパ長 清水 洋武

早いもので昨年春にラッパ長に就任してからまもなく1年が経とうとしています。

この間、それぞれの分団と出身分団の垣根を越えて防災訓練や消防大会の運営等で交流ができましたことは貴重な経験となりました。ありがとうございます。

さて、ラッパ班員は普段は分団の活動をしつつ有事の際は出動し、大会や団行事に備えてラッパの訓練を積んでおります。

管楽器未経験ながらもラッパ班に配属となり、練習に参加して徐々に曲が吹けるようになっていく姿は見ていて頼もしく思っています。

最後に、団員数の減少により一人が担う役割はより大きくなつてきておりますが、地域の防災力向上のため、男女問わず多くの方に「入団」いただきたく、村民の皆様のお力添えをお願い申し上げます。



一年間の活動を 振り返って

整備長 北村 宏之



村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し、深いご理解ご協力賜り、誠にありがとうございます。

現在消防団では団員減少の中活動しており、消防団組織の大きな改編を進めています。その中の一つとして、今年度よりポンプ車操法の選手を各分団・本部より選出し、合同チームとして操法大会に出場する試みを実施しました。初の試みと慣れない環境の中、選手・関係者が一致団結し素晴らしい成績を上げることができました。心より感謝致します。

今年度培った実績を次年度に活かす、また二年後に計画している二分団制への移行へ繋げていきたいと思っております。

様々な改革の中にあっても消防団員の本懐である、村民の安心・安全の確保の為、精進していきますので、今後とも更なるご理解ご協力をお願い致します。